

第3節 感染症対策業務

当センターは良質で高度な先進医療を安全に提供することを使命とする病院である。院内感染を未然に防止するとともに、感染症発生時には感染の拡大防止のためその原因を速やかに特定し、これを制圧、終息させることが重要である。

当センターの感染対策部門は、決定機関である **Infection control committee : ICC**、感染対策を実施する実働部隊の **Infection control team : ICT**、抗菌薬適正使用支援チーム (**Antimicrobial stewardship team : AST**) が設置されている。ICT は院内の全ての部門と連携を図り、各病棟から選出された感染制御リンクナースと協働し組織横断的に活動している。感染管理室は、医師、感染管理認定看護師、薬剤師、検査技師で構成されており、感染管理認定看護師 1 名を専従として配置している。院内の感染管理活動の中心となり、抗菌薬適正使用の推進を含む感染管理活動を主導している。

1 ICT 活動報告

(1) 薬剤耐性菌 (MRSA 等) 対策

厚生労働省サーベイランス事業 (以下 **Japan nosocomial infections surveillance : JANIS**) の全入院患者サーベイランス及び検査部門サーベイランスに参加している。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 等の主要な薬剤耐性菌による感染症に関するデータを継続的に収集・解析し、感染拡大防止への介入を行った。薬剤耐性菌による感染症が発生した場合は、随時細菌検査室や病棟からの報告を受け、病棟、外来、透析室、放射線部等の関係部署に対して感染経路別予防策の実施を依頼、指導した。また医師、看護師、薬剤師、検査技師で院内各部署のラウンドを実施し、院内感染事例の把握や感染予防策の指導を行った。

(2) 抗菌薬適正使用への取り組み

抗菌薬の適正使用を推進するため、抗菌薬適正使用支援チーム (以下 **Antimicrobial stewardship team : AST**) を設置している。AST は医師 1 名、感染管理認定看護師 1 名、薬剤師 3 名、検査技師 1 名で構成し、毎週 AST ラウンドを実施した。ラウンドでは、カルバペネム系抗菌薬や抗 MRSA 薬を特定抗菌薬とし、使用状況をモニタリング、評価している。抗菌薬の変更が必要な場合は医師へ提案するとともに、抗菌薬の選択に際し医師からの相談に応じた。また、特定抗菌薬は使用届出制とし、届出数の増加に取り組んだ。その他、当センターの薬剤感受性率を算出し職員へ公開している。薬剤感受性率は医師へ紙面で配布するほか、電子カルテでも閲覧可能とした。

(3) サーベイランス (医療器具関連・手術部位感染・手指衛生) の実践

ア 医療器具関連サーベイランス

JANIS の集中治療部門 (ICU) に参加しており、人工呼吸器関連肺炎、カテーテル関連血流感染症、尿路感染症のサーベイランスを行った。サーベイランス結果は適宜職員へフィードバックした。

イ 手術部位感染サーベイランス

全ての手術を対象に手術部位感染サーベイランスを実施し、JANIS へ報告している。手術部位感染発生時は感染対策や治療について医師やその他職員と検討を行った。また、心臓外科医師、ICU 看護師に対し手術部位感染の発生状況、感染防止対策に関する勉強会を実施した。

ウ 手指衛生サーベイランス

手指消毒剤の使用量から、1患者1日あたりの手指衛生回数を算出し、3～4ヵ月ごとにICC、ICTでフィードバックした。感染制御リンクナース会議では毎月フィードバックし、手指衛生の改善に取り組んだ。その他、ICUで直接観察による手指衛生適正実施率の評価を行った。手指衛生向上を目的に勉強会を実施し、実施率は2021年度の15%から30.8%へ上昇した。

(4) 環境整備に関する取り組み

毎月1回のICT環境ラウンド、不定期に感染管理認定看護師によるラウンドを実施した。また、リンクナースを中心に週1回環境整備強化日を設定し、病棟内全員で環境整備に取り組んだ。改善が乏しい部署については、感染管理認定看護師が直接改善策を提案、指導した。

(5) 職業感染防止

ア 結核感染防止

クオンティフェロン（QFT）検査にて、全職員のQFTベースラインを把握している。新規採用者および異動者は採用時、結核患者に接触するハイリスク職員は毎年実施している。一般病棟での予期せぬ結核患者の発生はなかった。

イ 針刺し、血液曝露対応

針刺し、切創、皮膚・粘膜曝露は19件報告された。19件中汚染された器材での針刺し事例は11件、汚染の有無が不明な事例は4件報告された。咬傷を含む皮膚・粘膜曝露は4件だった。手術室からの報告が6件と多かったため、メス等手術器材の安全な取り扱いについて注意喚起した。

ウ ワクチンの接種

職員に対するインフルエンザワクチンやB型肝炎ウイルスワクチン、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘ワクチンの接種を行った。新型コロナウイルスワクチンは、委託職員を含む院内職員に対する医療従事者接種を行った。

(6) 教育

	開催日	内容	対象者	参加人数
1	6月20日～ 8月10日	MRSAに対する感染対策 講師：感染管理認定看護師 大沢朗子 バンコマイシンについて －TDMの基礎知識とガイドライン 改訂のポイント－ 講師：薬剤部 松本大吾 ＊電子カルテパソコン上で配信	全職員	719人 (参加率99.6%)
2	2月21日～ 3月31日	CD感染症－感染対策と治療－ 講師：感染管理認定看護師 大沢朗子 薬剤部 川田美由樹 ＊電子カルテパソコン上で配信	全職員	人 (参加率%)

その他 院内研修

看護部ラダー研修：5件 新採用医師への感染対策研修：5件

学生（看護・薬剤）への研修：5件

その他 院外研修講師

東都大学：1 件

保健所主催感染対策研修会：2 件（熊谷保健所 ・ 本庄保健所）

埼玉県感染対策研修会：1 件 埼玉県主催感染管理者実習（当センターで実習）：1 件

近隣病院：2 件（特定医療法人好文会 あねとす病院 ・ 熊谷生協病院訪問看護ステーション）

（7）地域連携

感染対策向上加算 1 を算定する医療機関として、感染対策向上加算を算定する近隣施設と合同カンファレンスを実施した。カンファレンスは、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染対策に関する情報交換の他、薬剤耐性菌検出状況と抗菌薬使用状況について、手指消毒剤使用状況と手指衛生推進への取り組み、新興感染症発生に向けた訓練をテーマに実施した。また、連携病院で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した際、電話やメールにて感染対策に関する相談対応を適宜行った。また 4 ヶ所の連携施設へ赴き、基本的な感染対策やゾーニングを含む新型コロナウイルス感染症のクラスター予防等について指導を行った。

連携施設：深谷赤十字病院 ・ 小川赤十字病院 ・ 熊谷総合病院

医療法人社団シャローム シャローム病院 ・ 医療法人蒼龍会 武蔵嵐山病院

医療法人桂水会 岡病院 ・ 国民健康保険町立 小鹿野中央病院

くぼじまクリニック ・ しぶや医院

（8）新型コロナウイルス感染症対策

ア 感染者の入院受け入れ

埼玉県の重点医療機関として、2022 年度は 333 人の新型コロナウイルス感染症患者を受け入れ、軽症から超重症患者までの診療を行った。重症、超重症患者のうち、気管内挿管実施者はのべ 22 人、ECMO 実施者は 1 人だった。病床は 4C 病棟、RCU を使用した。

イ PCR 等検査体制

PCR 検査、LAMP 法検査、抗原定量検査を用いて、入院時スクリーニング検査や休日や夜間も含めた緊急入院時のスクリーニング検査等に対応した。また、発熱等体調不良の職員やその家族に対し積極的に PCR 等検査を実施し、感染者の早期発見に努めた。

ウ 感染対策の実施

独自に作成した院内フェーズ表を使用し、流行状況に合わせ会議や研修、会食、旅行等を制限し、職員の感染や院内クラスターの予防に努めた。また、流行状況や行政の方針等から適宜マニュアルの作成、修正、院内周知を行った。院内クラスター発生時は、入院制限や職員の接触者検診、感染対策の指導などを実施した。

エ 地域貢献

地域の感染対策を推進するため、適宜電話やメール等で感染対策の相談対応を行った。また、COVMAT の隊員としてクラスターが発生した高齢者施設や病院等へ出向き、感染対策のチェックや指導を行った。COVMAT の出勤回数は 7 件だった。

第4節 医療安全管理業務

1 組織体制の確立

当センターでは患者・医療従事者の安全確保等を目的に、医療安全に関する全般的事項を審議する医療安全管理委員会を設置している。また医療安全推進に向けて実践的に活動する医療安全推進担当者会、各部門の医療安全専門小委員会、有事の医療安全管理体制を担う医療事故対策委員会を設置し、医療事故防止に向けた組織体制を整備している。

医療安全管理室は、医療安全管理室長、専従の医療安全管理者を配置し、医療安全管理の中心的役割を担い、各部門と連携しながら医療安全の推進に努めている。

2 マニュアルの整備

医療安全管理マニュアル、説明と同意マニュアル、緊急事態発生時対応マニュアル、救急カート管理マニュアル、造影剤を安全に使用するための基準、医療事故防止マニュアル、医療事故防止薬剤マニュアル、麻薬及び向精神薬・毒薬の取り扱いマニュアル、インスリンに関する使用マニュアルを一部改正した。

また、画像診断報告書や病理診断報告書の確認漏れ対策を講じるため、令和5年度から報告書確認対策チームを設置する準備を整えた。

3 患者サポート窓口との連携

地域医療連携室（令和5年度から「患者サポートセンター」に名称変更）に患者サポート窓口が設置されている。患者サポート窓口で介入している相談内容のうち、難渋事例や医療事故や緊急事態の恐れのある事例において、医療安全管理者が報告を受け、医療安全推進担当者委員と相談し対応する支援体制をとっている。患者サポート部門と情報共有および介入相談のためのカンファレンスを毎月開催している。令和4年度は、医療安全管理者との情報共有は30件、医療安全管理者の介入は9件だった。

4 医療安全の取り組み

（1）医療安全管理委員会

委員会は副病院長、各診療部（科）長、各部（科）長、事務局長、その他院長が選任する者をもって構成する。定例会を毎月最終木曜日に設定し、12回開催した。主な検討内容は、以下のとおりである。

- ア 医薬品安全管理報告
- イ 医療機器安全管理報告
- ウ 医療安全推進担当者会 議事概要
 - ・研修会の企画・結果報告
 - ・医療安全ラウンド報告
 - ・医療安全推進月間事業結果報告
 - ・医療安全関係マニュアル等の改正案の報告と承認
 - ・医療安全情報の周知
 - ・インシデント事象報告・警鐘事例報告および対応策
 - ・各部門の活動報告
- エ その他

(2) 医療安全推進担当者会

医療安全推進担当者会は、定例会を毎月第3水曜日に設定し、12回開催した。

主な取り組み内容は、以下のとおりである。

ア 医療安全管理のための研修の企画・運営

セーフマスターのeラーニング機能を活用し、当センター全職員を対象に、医療安全研修を全5回実施した(表1)。また、医師を対象に気管支鏡を用いた気管内挿管、輪状甲状軟骨穿刺や輪状甲状膜切開キットの使用法に関する説明会・実技練習を実施した。

チームステップス(初級編)は、チームワークを高めて医療の質と安全性の向上を目指す目的で実施し、全職員を対象にZoomによる講義・動画視聴・グループに分かれての演習を6回実施し、計80名が参加した。また、インシデントを契機に部署単位でのチームトレーニングも実施した。

一次救命処置研修は、医師・看護師以外の職種を対象に、セーフマスターeラーニングによる救命処置(BLS手技、AED使用方法)の動画視聴研修を公開した。訓練人形とAEDトレーナーを用いた演習を予定したが、感染状況の拡大があり次年度に実施することとした。

イ 医療安全推進月間事業

毎年11月は厚労省が定める医療安全週間に合わせて医療安全月間としてイベントを企画している。令和4年度は医療安全推進月間ポスターの掲示や、全職員の名札に医療安全の緑色リボンシールを貼付し啓蒙活動を実施した。

医療安全文化醸成のための活動としては、「3words」を各部署・委員会・チーム・委託業者等から募集し、医療安全にかかわる3wordsと職員の笑顔写真を本館棟1階通路(ホスピタルストリート)に展示した。また、「チームメンバーをケアしよう!感謝の言葉を伝えよう」をスローガンに、「感謝の木」ポスターを各部署に貼りだし、お互いに向けたメッセージを付箋に記載し作成した。期間終了後、メッセージはクリスマスカードとして部署や各々にフィードバックした。

ウ 医療安全ラウンド

RRS(Rapid Response System)では、毎週木曜日に医療安全管理者・医師・看護師・臨床工学士のRRT(Rapid Response Team)による病棟ラウンドを実施し、患者状態の報告や環境状況の確認をおこなった。令和4年度のRRS起動は6件であった。

また、インシデント報告に関連した部署ラウンド、対策実施状況確認のための部署ラウンドを実施し、フィードバックして改善に努めた。

エ 医療安全に関する情報の周知徹底

医療安全ニュースを掲示し、医療安全カンファレンスで議題となった事象に関する情報や、医療安全推進月間や医療安全文化調査の活動報告等を提供した。

オ 医療安全通知の配布

繰り返される事象や、警鐘事例は医療安全通知として注意喚起を促した。また、医療安全に関する研修通知、医療安全対策に関するシステム変更等を通知した。

カ インシデント・アクシデント事象報告

注目すべきインシデントや警鐘事例、複数の部門がかかわっている事象は、医療安全カンファレンスで話し合い対策を講じた。また、医療安全推進担当者会議でも事象共有・フィードバック報告を行った。

キ 医療安全管理者の育成

医療の質や安全確保の中心的な役割を担う職員を育成するために、計画的に医療安全管理者養成研修への参加を実施している。令和4年度は、4名の職員(医師1名、臨床検査技師1名、放射線技師1名、薬剤師1名)が研修を修了した。

表1 医療安全研修会

開催日	内容	参加数
5月12日～6月30日	すぐに役立つ医療倫理（倫理委員会との合同企画） ～臨床の倫理的問題を法的に検討～	697名
7月1日～7月31日	診療用放射線の安全利用のための研修	703名
8月29日～9月29日	医療機器安全管理研修（輸液ポンプの使用方法）	685名
10月31日～11月30日	医薬品安全管理研修	657名
2月20日～3月31日	輸血の安全な取り扱い（輸血過誤の防止）	610名

（3）医療安全専門小委員会

各部門又は委員会が指定する特定の課題ごとに、専門小委員会を設置している。各部門におけるインシデントの原因分析・予防策・改善策の検討や、職員に対するインシデントレポートの積極的な提出を推進する業務を実施した。

（4）医療安全カンファレンス

医療安全管理室長、医療安全推進担当者会委員長、検査技術部副部長、放射線技術部副部長、薬剤部長、臨床工学部副部長、看護副部長、医事部長、システム保守担当者、医療安全管理者の10名で構成する。

毎週木曜日に定例会を設定し、43回開催した。提出されたインシデントレポートから警鐘事例を抽出し対応策を検討した。また、新聞報道や日本医療機能評価機構より発刊される医療安全情報に基づき、院内の状況確認及び情報共有、対策後のフィードバック報告を実施した。

以下は検討、改善した内容の一部である。

- ア 誤薬防止対策
- イ 患者誤認防止対策
- ウ 電子カルテに関連した事故防止対策
- エ 検査・測定に関連した事故防止対策
- オ 手術・血管カテーテル治療・透析に関連した事故防止対策
- カ 医療機器の使用に関する事故防止対策
- キ 転倒・転落

（5）地域連携

医療安全対策加算の算定施設として、医療安全の評価をおこなう目的として、以下の連携会議を開催した。（令和4年度は、対面による聞き取り評価を実施、部署ラウンドは未実施）

医療安全対策地域連携加算1：深谷赤十字病院

小川赤十字病院

医療安全対策地域連携加算2：医療法人社団シャローム シャローム病院

医療法人仁和会 埼玉江南病院

表2 インシデント・アクシデントの事象内訳と件数

事 象	合 計	インシデント	アクシデント (レベル3b以上)
指示・伝達	175	174	1
処方・与薬	728	724	4
輸 血	11	11	0
手術・麻酔	60	54	6
治療・処置	81	75	6
医療機器等の使用・管理	123	122	1
ドレンチューブ類の使用・管理	449	447	2
検 査	313	310	3
療養上の世話	202	200	2
転倒・転落	182	180	2
給食・栄養	103	103	0
そ の 他	247	241	6
計	2, 674	2641	33

表3 インシデント・アクシデントの職種別報告状況

事 象	合 計	インシデント	アクシデント (レベル3b以上)
看護師	2, 286	2275	11
医師	49	30	19
放射線技師	35	34	1
薬剤師	116	114	2
検査技師	77	77	0
臨床工学士	17	17	0
理学療法士	16	16	0
栄養士	67	67	0
その他	11	11	0
計	2, 674	2641	33

表3 インシデント・アクシデントの時間帯別の発生状況

事 象	合 計	インシデント	アクシデント (レベル3b以上)
0 ～ 1 時台	80	80	0
2 ～ 3 時台	75	72	3
4 ～ 5 時台	67	67	0
6 ～ 7 時台	151	147	4
8 ～ 9 時台	403	399	4
1 0 ～ 1 1 時台	514	510	4
1 2 ～ 1 3 時台	306	301	5
1 4 ～ 1 5 時台	325	320	5
1 6 ～ 1 7 時台	328	325	3
1 8 ～ 1 9 時台	182	180	2
2 0 ～ 2 1 時台	122	121	1
2 2 ～ 2 3 時台	104	104	0
不明	17	15	2
合計	2, 674	2641	33

第5節 地域医療連携・入退院支援センター業務

地域医療連携・入退院支援センターは、地域の医療機関、訪問看護ステーション、介護福祉施設との連携を図るとともに、医療相談、看護相談、医療福祉相談、入退院支援、情報発信等の業務を行っている。他院からの診療情報に関する照会及び相談の対応、紹介元医療機関への初回受診報告及び転帰報告、県民に対する適切な診療科の受診案内、地域医療機関との連携会議など業務は多岐にわたっている。

令和4年度の職員構成は、医師1名（兼務）、主幹1名（看護師）、MSW4名（常勤2名・非常勤2名）、看護師11名、事務4名で（常勤1名・非常勤3名）である。病診連携担当、患者サポート担当、入退院支援担当として業務分担し、連携して患者とその家族のサポートに努めた。

病診連携担当は、地域の医療機関と連携し患者がスムーズに診療を受けられるよう努めた。また、YouTubeでのPRや住民への啓発を行った。

患者サポート担当は、患者・家族が安心して入院中の療養生活を送ることができるようにMSWによる医療福祉相談や看護師による看護相談を実施した。院内・外の相談窓口として医療機関や施設、担当部署等と連携を図り医療連携や在宅療養支援を実施した。令和4年度より、脳卒中相談窓口としての機能を追加した。

入退院支援センターは、患者が安心・納得して医療が受けられるよう、入院前から患者の生活状況を把握し退院支援看護師や病棟看護師と情報共有した。退院支援看護師は入院初期から退院後の生活を見据え、患者・家族の思いに寄り添いながら院内・外の多職種と連携・協働し退院調整を行った。

1. 地域医療連携

1) 診療情報提供・照会（表1）

表1 診療情報提供・照会実績

内 容	令和4年度	令和3年度
診療情報提供・照会件数	6,418	4,236 件

令和4年度の対応件数は6,418件で、前年度より2,182件増加した。

2) 医療機器共同利用状況（表2）

医療機器共同利用件数は、他院から放射線検査及び生理検査の依頼を受けており、依頼件数は前年度と比べ6件減少した。

表2 医療機器共同利用実績

内 容	令和4年度	令和3年度
核医学検査依頼件数	44 件	58 件
放射線機器共同利用件数	12 件	5 件
生理検査依頼件数	2 件	1 件

3) 前方連携

地域医療機関へ医師と10件、事務員のみで284件訪問した。

4) 広報活動

出張いきいき健康塾を「皆さん、心不全ってご存じですか？～心不全の最新の診断と治療～」

のテーマで一度開催した。

YouTube チャンネルに 4 本の動画をアップロードした。

2. 相談支援（表 3）

相談で多かったのは受診・医療相談であり、患者・家族からの相談や医療機関からの専門的な治療に関連した相談が多く、関連部署、各科医師と連携を図り対応した。また、訪問看護・訪問診療の導入や介護支援専門員と連携しながら在宅療養支援を実施した。

経済的・社会的問題の相談は顕著に増加しており、他部署からの早期の介入依頼により、継続的・長期的介入に結びついている結果と分析している。「無保険や低所得の患者」「高齢世帯・単身世帯・家族の支援が必要なため在宅介護が受けられない」などの問題が多かった。それらの問題は、高額療養費制度の説明、介護保険など社会保障制度の情報提供で解決できたことが多かった。そのため患者・家族が社会保障制度の情報へアクセスしやすいように「いきつく情報」を適宜改定し、相談時に活用した。さらに、行政機関・相談支援事業所との合同会議、連絡調整を密に行うことで円滑に地域に繋がった。

心理的相談も増加しており、患者・家族の抱える問題が深刻かつ複雑で、長期間の関わりを要し難航する場合も多かった。必要に応じて他機関へ連絡を取り、専門的支援に繋ぐことで解決した。

表 3 相談支援業務実績

内 容	令和 4 年度	令和 3 年度
受診・医療相談	2046	2,158
経済的問題	146	91
社会的問題	612	363
心理的問題	100	85
セカンドオピニオン相談	4	9
その他	164	405
合 計	3072	3111

3. 入退院支援実績（表 4）

1) 入院支援

入院支援は、令和 2 年 4 月に入退院支援センターを設置し、準備期間を経て令和 2 年 8 月から手術目的の入院患者へ入院支援業務を開始した。令和 3 年 4 月より入院支援看護師は 5 名に増員し、入院支援を全診療科へ拡大した。令和 4 年度の入院支援件数は 2,117 件で前年度より 399 件増加した。入院支援介入率は予定入院患者の 73%（前年度比 4.9%増）、療養支援計画書作成率は 45.1%であった。薬剤師との連携件数は 1,894 件（前年度比 271 件増）、管理栄養士との連携は 66 件（前年度比 197 件減）、MSW との連携は 67 件（前年度比 28 件減）であった。また、院外連携 107 件中、7 割が人工透析関連であり、その他ケアマネージャー等とも連携した。入院支援の段階から積極的に在宅サービス担当者と情報共有し、退院支援につなげていくことが今後の課題である。

2) 退院支援

令和 4 年度は、退院支援介入件数は 1079 件（前年度比 76 件増）、退院支援介入率は、19.7%（前年度比 0.3%減）であった。急性期治療後の転院先は、回復期リハビリテーション病棟 176 件、一般病棟 159 件、地域包括ケア病棟 60 件、療養病棟 54 件、緩和ケア病棟 5 件の順

であった。人工呼吸器の離脱困難や維持透析など医療依存度の高い患者や新型コロナウイルス感染症の対応により病床制限をしている病院などがあり、転院調整が難渋したケースもあった。

退院支援介入患者は、独居・2人暮らし世帯、施設入所者が69%を占め、退院調整先の内訳は、転院42%、自宅42%、施設9%、中止（死亡）7%であった。令和4年度も新型コロナウイルス感染症防止対策による面会制限が続き、院外関係者との対面を最小限にした影響から退院前カンファレンスの件数は減少した。しかし、退院後も医療・看護の継続が必要な患者は、積極的に訪問診療・訪問看護師、介護支援専門員等と連携し、在宅療養に必要な情報を提供しながら、退院後の医療・介護・福祉の切れ目ない在宅療養支援に努めた。

表4 入退院支援の状況

内 容	令和4年度	令和3年度
入院患者実数	5,497	5,008
退院患者実数	5,489	5,010
入院支援介入件数	2,117	1,718
退院支援介入件数	1,079	1,003
内訳) 転院支援	455	422
在宅支援	555	510
退院支援介入率	19.7%	20%
介護支援等連携指導カンファレンス実施	78	87
退院時共同指導カンファレンス実施	29	33

3) 入院前 COVID - 19 PCR 検査等実施

予定入院患者の入院前 COVID-19 検査の検体採取は、入院支援として行った。PCR 検査 2025 件、LAMP 法（11 月からは抗原検査）722 件に対応した。

4) 連携施設訪問

後方連携がスムーズに図れるように、施設訪問を 45 施設（24 病院、8 訪問看護ステーション、13 施設）に行い、また来訪された 130 の医療・介護施設の相談員と面会し情報交換を行った。

第 6 節 診療材料等管理業務

備品及び診療材料等を適正に選定又は採用するため、備品・診療材料選定委員会を設置している。

令和 4 年度は 20 回の委員会を開催し、21 件の備品選定を行うとともに、下表のとおり、診療材料及び試薬の採用・削除について審議・検討を行った。

また、平成 25 年 10 月 1 日からは S P D を開始し、平成 30 年 8 月 1 日より株式会社栗原医療器械店に診療材料・試薬（医薬品に該当するもの等を除く）の購入と供給を委託した。（契約期間令和 6 年 9 月 30 日まで）

【診療材料等の採用件数】

種 類	新 規 採 用	緊急規程適用承認
診療材料	36 件	0 件
試 薬	7 件	0 件

【診療材料等 S P D 委託品目数】

削 除 品 目 数	763 品目
採 用 品 目 数	907 品目
令和 2 年度末総品目数	9, 436 品目

第7節 図書室の業務

図書室の状況

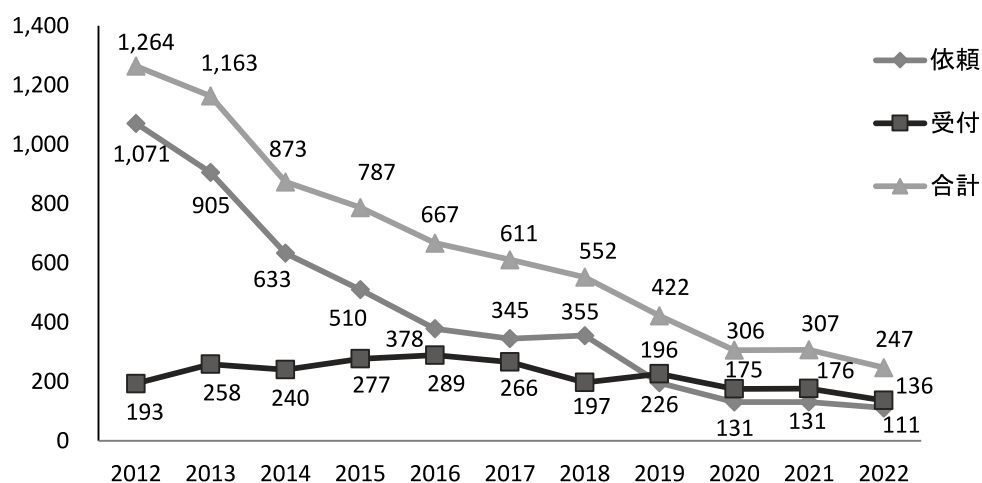
1 蔵書数

資料区分	蔵書数	令和4年度受入数	令4年度受入雑誌数 (タイトル数)
単行本	10,116冊	62冊	洋雑誌29誌※
ビデオ・DVD	513本	0本	
製本雑誌	13,099冊	89冊	和雑誌66誌※

※電子ジャーナルを含む

2 文献相互貸借の推移

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
依頼	1,071	905	633	510	378	345	355	196	131	131	111
受付	193	258	240	277	289	266	197	226	175	176	136
合計	1,264	1,163	873	787	667	611	552	422	306	307	247



第 2 編

研 究 編

第 1 章 研究施設における研究

1. はじめに

県民の希望する先進医療を実践するために、本センターが循環器、呼吸器疾患に関する日本有数の医療機関になるには、世界的レベルで評価される新しい診断や治療の技術を開発していく必要がある。

本研究施設は、これを目標として以下のような基本方針を掲げ、本センターの活動の一端を担っている。

2. 運営方針

2. 1 基本方針

- ・ つねに世界の最先端を目指し、独創性が高く、波及効果の大きい研究を行う。
- ・ 臨床への応用を目指したテーマを中心に研究活動を行う。
- ・ 医師や技師が創造性を最大限に発揮できるように支援する。

2. 2 運営方針概要

1. 国内外の研究ネットワークを構築し、大学等の他の研究機関と共同研究を積極的に行うことで研究の活性化と迅速化を図る。
2. 実用性の高い研究については、製品化を考慮すると企業との共同研究が必須となるため、これに見合った共同研究システムを構築していく。
3. 理工学系の研究スタッフの参加により、従来の医療スタッフだけでは実行不可能だった研究を実施できる支援体制を作る。

具体的には以下のようなことを行っている。

- ・ 研究テーマの選定に関して助言をする。
 - ・ 研究計画に対して工学的側面から助言する。
 - ・ 市販品にはない特殊な研究機器を試作する。
 - ・ 計測システムに関して助言または構成の支援をする。
 - ・ シミュレーション等により実験結果を理論面から予測する。
 - ・ 実験結果の解析手法に関して技術的な支援をする。
 - ・ 実験結果に対して工学的側面から考察を加える。
 - ・ 工学的側面の強い研究においては単なる支援に止まらず共同で研究を行う。
 - ・ 研究を円滑に進めるために研究ネットワークを利用して、研究内容に見合った外部機関の研究協力者（大学、公立研究機関等の人材）を紹介する。
 - ・ 若手医師や技師に研究活動に関連した一般知識（研究活動のしかた、論文作成発表手順等）の教育と援助を行う。
 - ・ 医師や技師が知っておくべき工学分野の知識を伝達する。
 - ・ 医学に関連した工学分野におけるトピックスを提供する。
4. センターに勤務する医師や技師の研究計画は、原則としてセンター内公募とし、研究委員会にて採否を決定する。
 5. センター外の研究者が当施設を利用して学術的に意義のある研究をしたい場合も、当センター医療職員との共同研究として公募研究の場合と同様に扱う。
 6. 研究のカテゴリーを以下のように分類し、実験研究の目標を明確化する。
 - a) 新奇性・独創性が高い研究（世界初か否かを問う）
 - b) 質的波及効果が高い研究
 - c) 量的波及効果が大きい研究

- d) 従来の方法の理論面からの研究
 - e) 実践的効果がある実験
 - f) 教育的効果がある実験
7. 研究成果の最終評価を厳しく行い、成果獲得のための投資効率を高める。
 8. 研究で得られた成果は、報告書にまとめ、また報告会を開くことで、だれもがアクセスできるよう管理する。
 9. 動物実験はすべて NIH 基準を満足させることを条件とする。

3. 研究概要

令和 4 年度に行われた公募研究を含めた主要研究テーマ及び研究内容の概略を以下に示す。

これらの研究は、まだ研究を開始したばかりで実験系の確立を試みている段階のものもあるが、独創性の高いものや、実用性の高いものが多く、今後の成果が期待される。

持続的硬膜外腔脊髄冷却システム

大動脈瘤手術の深刻な合併症である対麻痺を回避する目的で開発した持続的硬膜外腔脊髄冷却システムは、長年にわたる動物実験で満足のいく結果を示すことができた。この成果をもとに世界初の臨床応用を目指して、システムの性能面や安全面でなお一層の向上を図るべく検討を進めた。カテーテルの経皮的挿入を実現し、胸部大動脈瘤手術例に適用して、その安全性、有用性を確認しつつあり、対麻痺の発生回避率はきわめて高い。過去に類型を見ない新技術であり、現在、医師主導の臨床治験から本邦 PMDA（米国の FDA に相当）主導の治験への移行期である。工学的側面から冷却システムのメカニズムをコンピュータにより解析し、冷却効果の裏付けを進めている。最終的に製造承認を得て、臨床に送り出すべく鋭意検討中である。将来は脊髄外傷による四肢麻痺などの治療にも応用できる可能性さえ秘めていると期待している。

以下に令和 4 年度に行われた公募研究テーマを示す。

1. エキシマレーザーカテーテル冠動脈形成術(Excimer Laser Coronary Atherectomy : ELCA)の安全性と有効性について
2. 3D プリンターを用いた弓部大動脈瘤に対する自作開窓型ステントグラフト作成と その留置の正確性における検討
3. 市中肺炎における起因微生物の検討
4. 特発性肺線維症と鳥関連慢性過敏性肺炎の鑑別・診断における鳥特異抗体の有用性の検討
5. 急性経過の間質性肺炎に占めるウイルス肺炎の頻度とその特徴に関する検討
6. COVID-19 変異株における PCR-Ct 値の経時変化
7. 呼吸器感染症患者における TARC の臨床的意義の検討
8. 原発性肺癌における PD-L1 発現の不均一性の研究
9. Cone-beam CT を用いた胸部外科手術の有用性の研究
10. I 期肺癌手術症例において、周術期末梢血循環腫瘍細胞は再発予測因子となるか？
11. マイクロ血管吻合操作における客観的技術評価を用いた教育システムの構築
12. 術前腎機能低下合併心臓手術患者における腎障害マーカーの変化
13. 人工心肺使用症例における急性腎障害の発生に対し尿中バイオマーカー L-FABP を使用し急性腎障害の早期予測と体外循環操作の改善が可能か検討

第2章 病院における研究等

1 著 書

血管外科

村上 友梨. 私の修行時代. 血管外科症例検討会雑誌; 41: 140-1

脳神経センター

Kikkawa Y, Kurita H. Management of wide-necked basilar tip aneurysms. In: Kato Y and Ansari A (eds), Cerebrovascular Surgery- Controversies, standards and advances, Springer-Verlag Italia, Milano, 297-307: 2022

病理診断科

Kawabata Y. The pathogenesis and progression of sarcoidosis from the standpoint of tuberculosis. TUBERCULOSIS, Integrated Science: Integrated Studies for a Complex Disease (Saghazadeh A, edit.), Springer Nature, Switzerland. 2023:1003-1031.

河端美則, 清水禎彦. 呼吸細気管支炎－間質性肺疾患. 非腫瘍性疾患病理アトラス 肺 (蛇澤 晶, 熊坂利夫 編集) 病理と臨床別冊, 文光堂, 東京, 2022: 59-64.

河端美則, 清水禎彦. 剥離性間質性肺炎. 非腫瘍性疾患病理アトラス 肺 (蛇澤 晶, 熊坂利夫 編集) 病理と臨床別冊, 文光堂, 東京, 2022: 65-72.

河端美則, 清水禎彦. 肺ランゲルハンス細胞組織球症. 非腫瘍性疾患病理アトラス 肺 (蛇澤 晶, 熊坂利夫 編集) 病理と臨床別冊, 文光堂, 東京, 2022: 151-158.

河端美則, 渡辺 哲. 結合織病 (Ehlers-Danlos 症候群, Marfan 症候群を含む). 非腫瘍性疾患病理アトラス 肺 (蛇澤 晶, 熊坂利夫 編集) 病理と臨床別冊, 文光堂, 東京, 2022: 392-398.

清水重喜, 前島亜希子, 桂義久, 杉野弘和, 本間浩一, 松野吉宏, 河端美則. 寄生虫の肺病変. 非腫瘍性疾患病理アトラス 肺 (蛇澤 晶, 熊坂利夫 編集) 病理と臨床別冊, 文光堂, 東京, 2022: 361-366.

河端美則. 結核症の病理. 基礎からわかる結核診療ハンドブック (御手洗聡, 斎藤武文編集), 中外医学社, 東京, 2022: 14-17.

2 論文

循環器内科

中島 崇智

The characteristics of Japanese guidelines on diagnosis and treatment of cardiac sarcoidosis compared with the previous guidelines

Fumio Terasaki^{1*}, Kengo Kusano^{2*}, Takatomo Nakajima³, Yoshikazu Yazaki⁴, Shin-ichiro Morimoto⁵, Daniel

A. Culver⁶, Mitsuki Isobe⁷

SARCOIDOSIS VASCULITIS AND DIFFUSE LUNG DISEASES 2022; 39 (3); e2022028 DOI: 10.36141/svdl.v39i3.12531

Soichiro Ebisawa, Hiroyuki Tanaka, Toshiya Muramatsu, Koichi Kishi, Yuji Oikawa, **Makoto Muto**, Hisayuki Okada, Tomohiro Kawasaki, Ryohei Yoshikawa, Yuji Hamazaki & Etsuo Tsuchikane. Impact of minimum contrast media volumes during percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion lesion. Heart Vessels (2023). <https://doi.org/10.1007/s00380-023-02270-9>

呼吸器内科

Kurashima K, Numano T, Yoshino A, Osawa A, Takaku Y, Kagiya N, Yanagisawa T.

Antibody titers among healthcare workers for coronavirus disease 2019 at 6 months after BNT162b2 vaccination.

Vaccine. 2022 Sep 16;40(39):5670-5674.

Morimoto Y, Ishiguro T, Uozumi R, Takano K, Kobayashi Y, Shimizu Y, Takayanagi N

Significance of Hypophosphatemia in Patients with Pneumonia

Intern Med 61: 979-988, 2022

Namkoong H, Eda Hiro R, Shiguro T, Isono T, Shibata S, Matsui Y, Hosoda C, Takano K, Nishida T, Kobayashi Y, Takaku Y, Takayanagi N, Koichi Fukunaga, Yukinori Okada, et al :

DOCK2 is involved in the host genetics and biology of severe COVID-19.

Nature. 2022 Sep;609(7928):754-760.

Wang QS, Eda Hiro R, Ishiguro T, Isono T, Shibata S, Matsui Y, Hosoda C, Takano K, Nishida T, Kobayashi Y, Takaku Y, Takayanagi N, Koichi Fukunaga, Yukinori Okada, et al

The whole blood transcriptional regulation landscape in 465 COVID-19 infected samples from Japan COVID-19 Task Force

Nat Commun. 2022 Aug 22;13(1):4830.

Lee H, Chubachi S, Ishiguro T, Kanai T, Fukunaga K et al; Japan COVID-19 Task Force.

Characteristics of hospitalized patients with COVID-19 during the first to fifth waves of infection: a report from the Japan COVID-19 Task Force

BMC Infect Dis. 2022 Dec 12;22(1):935.

Watase M, Masaki K, Ishiguro T, Kanai T, Fukunaga K et al; Japan COVID-19 Task Force.
Impact of accumulative smoking exposure and chronic obstructive pulmonary disease on COVID-19
outcomes: report based on findings from the Japan COVID-19 task force
International Journal of Infectious Diseases 128 (2023) 121–127

Lee H, Chubachi S, Namkoong H, Ishiguro T, Kanai T, Fukunaga K et al; Japan COVID-19 Task
Force.
Characteristics of hospitalized patients with COVID-19 during the first to fifth waves of infection: a
report from the Japan COVID-19 Task Force
BMC Infect Dis. 2022 Dec 12;22(1):935

Nakagawara K, Chubachi S, Ishiguro T, Kanai T, Fukunaga K et al.
Characteristics of hospitalized patients with COVID-19 during the first to fifth waves of infection: a
report from the Japan COVID-19 Task Force
Respir Res. 2022 Nov 15;23(1):315.

Otake S, Chubachi S, Ishiguro T, Kanai T, Fukunaga K, et al; Japan COVID-19 Task Force.
Clinical clustering with prognostic implications in Japanese COVID-19 patients: report from Japan
COVID-19 Task Force, a nation-wide consortium to investigate COVID-19 host genetics.
BMC Infect Dis. 2022 Sep 14;22(1):735.

Lee H, Chubachi S, Ishiguro T, Kanai T, Fukunaga K, et al; Japan COVID-19 Task Force.
Effects of mild obesity on outcomes in Japanese patients with COVID-19: a nationwide consortium to
investigate COVID-19 host genetics.
Nutr Diabetes. 2022 Aug 9;12(1):38.

高野賢治, 石黒卓, 小林康人, 鳥羽里穂, 高田直美, 上田みゆき, 清水禎彦, 高柳昇
気管支肺胞洗浄液の PCR 検査で診断した COVID-19 以外の原発性ウイルス肺炎
日呼吸誌, 12(1): 2–10, 2023

石黒卓, 中元康雄, 上田みゆき, 高田直美, 高柳昇
オウム病散発例の臨床的検討
日呼吸誌, 12(1): 11–18, 2023

呼吸器外科

Saito Y, Matsui A, Michiyuki S, Morooka H, Ibi T, Yamauchi Y, Takahashi N, Shimizu Y, Ikeya T, Hoshi
E, Sakao Y, Kawamura M. Loop-Mediated Isothermal Amplification as Point-of-Care Testing for EGFR-
Mutated Lung Adenocarcinoma. Micromachines (Basel). 2022;13(6):897.

Saito Y, Watanabe T, Kanamoto Y, Asami M, Yokote F, Dejima H, Morooka H, Ibi T, Yamauchi Y,
Takahashi N, Ikeya T, Sakao Y, Kawamura M. A pilot study of intraoperative localization of peripheral
small pulmonary tumors by cone-beam computed tomography: sandwich marking technique. J Thorac

Dis. 2022;14(8):2845-2854.

脳神経センター

<英文>

Kikkawa Y, Kurita H. Management of wide-necked basilar tip aneurysms. Adv Tech Stand Neurosurg. 44: 297-307; 2022. (原著論文)

Neki H, Katano T, Maeda T, Shibata A, Komine H, **Kikkawa Y**: Intraarterial urokinase for thrombus migration after mechanical thrombectomy for large vessel ischemic stroke. Interv Neuroradiol. 29(1): 88-93; 2023 (原著論文)

<和文>

吉川雄一郎, 柴田碧人, 古峰弘之, 根木宏明, **寺西亮雄**, 鈴木海馬, 上出智也, 池田俊貴, 栗田浩樹. 大型巨大内頸動脈瘤に対する直達手術の治療成績と問題点. 脳卒中の外科 50(5): 370-376; 2022. (原著論文)

吉川雄一郎, **木村辰規**, **寺西亮雄**, 鈴木海馬, 吉川信一郎, 竹田理々子, 小倉文史, 池田俊貴, 大井川秀聡, 栗田浩樹. クリッピング/コイル塞栓術後再発脳動脈瘤に対する直達手術の治療戦略. 脳卒中の外科 (in press) (原著論文)

病理診断科

Komatsu M, Yamamoto H, Matsui S, Terasaki Y, Hebisawa A, Iwasawa T, Johkoh T, Baba T, Miyamoto A, Handa T, Tomii K, Waseda Y, Bando M, Ishii H, Miyazaki Y, Yoshizawa A, Takemura T, Kawabata Y, Hanaoka M, Ogura T. Tokyo Diffuse Lung Disease Study Group. Respiratory lesions in IgG4-related disease: Classification using 2019 ACR/EULAR criteria. ERJ Open Res 2022 Sep 12;8(3):00120-2022. doi: 10.1183/23120541.00120-2022. eCollection 2022 Jul. (原著)

Asato Y, Hinata S, Chiba K, Ohnri Y, Okabayashi K, Aono H, Marumo K, Kawabata Y, Yokoyama M. An autopsy case of pleural mesothelioma with military metastasis. 肺癌 2022;62:411-416. (症例報告)

3 学会・研究発表等

循環器内科

一般学会研究会発表（演者）

国内学会（総会）

池田 和也 CVIT

A case of hemolytic anemia of unknown cause successfully treated with TAVI

2022 年 7 月 21 日 パシフィコ横浜ノース 口頭発表・web 配信（ハイブリッド開催）

佐々木 和哉 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 一般演題

Combined use of Impella and V-V ECMO for life-threatening ischemic heart disease patients

2022 年 7 月 23 日 横浜

国内学会（地方会）

野々上 明 第 60 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会

自己拡張型ステント付き生体弁の干渉によって生じた僧帽弁逆流に対して経皮的僧帽弁クリップ術を用いて治療し得た 1 例

2022 年 10 月 14 日から 15 日 大手町サンケイプラザ

中山 稜、宮本 敬史 第 60 回日本心血管インターベンション治療学会 関東甲信越地方会 YIA 選考部門

活動性椎体椎間板炎を合併した Severe AS による心不全を Retrograde BAV と TAVI で二期的に治療しえた一例

2022 年 10 月 14 日 大手町サンケイプラザ

一般学会研究会発表（座長）

鈴木 輝彦

R2Psystem が有効であった 2 症例

1.OAS with Imaging Seminar

LCX 入口部病変に対して OAS と OFDI が有用であった一例

2022 年 9 月 29 日 web

2. R2P small meeting

2023 年 2 月 15 日 web

心臓外科

第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会

乳頭筋異常を伴う左室流出路狭窄に対し、右側左房アプローチで手術を行った 1 例

近藤太一、川崎恭平、若田部誠、阿部貴之、織井恒安

血管外科

第 52 回日本心臓血管外科学会学術総会. 横浜. 2022 年 3 月.

・原正幸 鈴木宏幸 蝶野喜彦 大森槇子 小澤博嗣 馬場健 宿澤孝太 立原啓正

大木隆生. TEVAR 後再手術における完全血管内治療による中枢追加ステントグラフトの取り組み. (パネルディスカッション)

第 122 回日本外科学会学術総会. 熊本. 2022 年 4 月.

・原正幸 鈴木宏幸 蝶野喜彦 大森槇子 小澤博嗣 馬場健 宿澤孝太 立原啓正

大木隆生. 医療関係者間コミュニケーションアプリ「JOIN」を用いた緊急大動脈疾患への取り組み. (特別企画)

第 50 回日本血管外科学会学術総会. 小倉. 2022 年 5 月.

・原正幸 鈴木宏幸 蝶野喜彦 大森槇子 小澤博嗣 馬場健 宿澤孝太 立原啓正

大木隆生. 胸部大動脈瘤に対する TEVAR の治療成績. (シンポジウム)

第 17 回 Japan Endovascular Symposium. 東京. 2022 年 9 月.

・原正幸 鈴木宏幸 蝶野喜彦 大森槇子 小澤博嗣 馬場健 宿澤孝太 立原啓正

大木隆生. 胸部大動脈瘤治療に対する Najuta -慈恵医大 100 例の経験から- (企業共催セミナー)

・原正幸 鈴木宏幸 蝶野喜彦 大森槇子 小澤博嗣 馬場健 宿澤孝太 立原啓正

大木隆生. Agilis を使った分枝カニューレション、分枝再建 (口演)

第 50 回日本血管外科外科学会定期学術集会. 小倉. 2022 年 5 月.

・村上 友梨, 墨 誠, 清水 理葉, 大木 隆生. 腹部ステントグラフト術後 Type 2 エンドリークに対する腹部超音波検査の有用性 (口演)

第 52 回日本心臓血管外科学会学術総会. 横浜. 2022 年 3 月.

・村上 友梨, 墨 誠, 清水 理葉, 大木 隆生. 3D プリントモデルを活用した分岐型デバイス Najuta の分枝開存と正確性の検討 (口演)

第 188 回血管外科症例検討会. 2022 年 2 月.

・村上友梨, 墨誠, 清水理葉. 3D プリントモデルを使用し自作開窓ステントグラフト留置を行った弓部大動脈瘤の 1 例 (web 口演)

第三回 EVT 外科交流会 in 北関東. 2022 年 7 月.

・村上友梨, 墨誠, 瀧澤玲央, 原正幸. ULTRASCORE の石灰化を伴う下腿びまん性狭窄病変への有効性. (web 口演)

呼吸器内科

磯野泰輔、鍵山奈保、長谷見次郎、長谷川愛梨、西田隆、細田千晶、河手絵理子、小林洋一、石黒卓、高久洋太郎、倉島一喜、柳澤勉、高柳昇

EGFR 遺伝子変異陽性肺癌に対するチロシンキナーゼ阻害剤の効果・予後因子・免疫チェックポイント阻害薬の有効性の検討：第 62 回日本呼吸器学会学術講演会：2022 年 4 月 22 日

小林洋一、長谷見次郎、長谷川愛梨、磯野泰輔、西田隆、細田千晶、河手絵理子、石黒卓、高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、柳澤勉、高柳昇

胸腹部大動脈瘤 952 例に合併した呼吸器疾患と予後の関連：第 62 回日本呼吸器学会学術講演会：2022 年 4 月 23 日

長谷川愛梨、西田隆、長谷見次郎、磯野泰輔、細田千晶、河手絵理子、小林洋一、石黒卓、高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、柳澤勉、高柳昇

当院における加湿器肺 11 例の臨床的検討：第 62 回日本呼吸器学会学術講演会：2022 年 4 月 23 日

長谷見次郎、高久洋太郎、長谷川愛梨、磯野泰輔、西田隆、細田千晶、河手絵理子、小林洋一、石黒卓、鍵山奈保、倉島一喜、柳澤勉、高柳昇

SARS-CoV-2 ワクチン接種 1 か月後の抗体価に及ぼす因子と各抗体検査キットの比較：第 62 回日本呼吸器学会学術講演会：2022 年 4 月 23 日

丸山智也、西田隆、長谷見次郎、西岡彩子、磯野泰輔、小島彩子、河手絵理子、小林洋一、石黒卓、高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、柳澤勉、高柳昇

肺限局型のびまん性肺胞隔壁型アミロイドーシスの一例：第 252 回日本呼吸器学会関東地方会：2022 年 11 月 5 日

西岡彩子、鍵山奈保、寺西亮雄、丸山智也、長谷見次郎、磯野泰輔、小島彩子、西田隆、河手絵理子、小林洋一、石黒卓、高久洋太郎、倉島一喜、柳澤勉、吉川雄一郎、清水禎彦、高柳昇

脳・皮下に多発アスペルギルス膿瘍を来した免疫不全合併アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (ABPM) の 1 例：第 182 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会 第 251 回日本呼吸器学会関東地方会 合同学会：2022 年 9 月 10 日

長谷川愛梨、西田隆、長谷見次郎、磯野泰輔、河手絵理子、細田千晶、小林洋一、石黒卓、高久洋太郎、鍵山奈保、倉島一喜、柳澤勉、高柳昇

対称性四肢末端壊死 (symmetrical peripheral gangrene) をきたした肺炎球菌性肺炎の 1 例
第 250 回日本呼吸器学会関東地方会：2022 年 7 月 16 日

呼吸器外科

Yuichi Saito, Tomohiro Watanabe, Yasuyuki Kanamoto, Fumi Yokote, Hitoshi Dejima, Yoshikane Yamauchi, Nobumasa Takahashi, Yukinori Sakao and Masafumi Kawamura: Intraoperative Localization for Peripheral Small Pulmonary Tumor by Cone-beam Computed Tomography. The STS 58th Annual Meeting, Miami Beach, Florida USA; January 29 -31, 2022

Yuichi Saito, Shin Wakimoto, Hiroaki Morooka, Takayuki Ibi, Yoshikane Yamauchi, Nobumasa

Takahashi, Yoshihiko Shimizu, Tomohiko Ikeya, Masafumi Kawamura, and Yukinori Sakao. Intra-tumor and inter-tumor heterogeneity of PD-L1 expression. World Congress for Bronchology & Interventional Pulmonology, 22nd WCBIP/WCBE World Congress, Marseille France ; OCTOBER 6-9, 2022

Yuichi Saito, Shin Wakimoto, Hiroaki Morooka, Takayuki Ibi, Yoshikane Yamauchi, Nobumasa Takahashi, Yoshihiko Shimizu, Tomohiko Ikeya, Yukinori Sakao, Masafumi Kawamura. Inter-tumor heterogeneity of PD-L1 expression in non-small cell lung cancer. IASLC 2022 World Conference on Lung Cancer, Vienna, Austria; AUGUST 6-9, 2022

Yuichi Saito, Tomohiro Watanabe, Yasuyuki Kanamoto, Fumi Yokote, Hitoshi Dejima, Yoshikane Yamauchi, Nobumasa Takahashi, Yukinori Sakao and Masafumi Kawamura. INTRAOPERATIVE CONE-BEAM CT IMAGING FOR PERIPHERAL SMALL PULMONARY NODULES. The 30th ESTS Meeting. June 19-21, 2022, The Hague, The Netherlands

揖斐 孝之(埼玉県立循環器・呼吸器病センター 呼吸器外科), 脇本 信, 諸岡 宏明, 高橋 伸政, 池谷 朋彦: 持続腹膜透析開始後に発症した横隔膜交通症に対し胸腔鏡下横隔膜縫縮術を施行した1例. 第39回日本呼吸器外科学会, 東京; 2022年5月20-21日

高橋 伸政, 脇本 信, 諸岡 宏明, 揖斐 孝之, 浅沼 晃三, 池谷 朋彦: 縦隔腫瘍に対する上大静脈グラフト置換後のグラフト閉塞に対し人工心肺下に血栓除去・血行再建を行った一例. 第39回日本呼吸器外科学会, 東京; 2022年5月20-21日

高橋 伸政, 脇本 信, 諸岡 宏明, 揖斐 孝之, 池谷 朋彦, 下田 純子, 清水 禎彦, 浅沼 晃三: 病理病期 IA 期非小細胞肺癌術後の再発予測因子の検討. 第63回日本肺癌学会, 福岡; 2022年12月1-3日

森川 慶, 高田 佐織, 田中 寿志, 井谷 英敏, 堀内 一哉, 大熊 裕介, 副島 研造, 中川 英之, 中原 善朗, 関 好孝, 別所 昭宏, 高橋 伸政, 林 健太郎, 遠藤 健夫, 武山 廉, 前倉 俊也, 瀧川 奈義夫, 堀本 勝久, 松谷 哲行, 関 順彦: EGFRmt(+)NSCLC の afatinib バイオマーカー探索前向き観察研究(EXTRA 試験) 臨床パート(第2報). 第63回日本肺癌学会, 福岡; 2022年12月1-3日

渡邊 直昭, 藤田 雄, 石黒 卓, 高橋 伸政, 清水 禎彦, 高柳 昇, 河端 美則, 荒屋 潤, 山本 雄介, 桑野 和善: びまん性肺疾患 線維化の病態 シングルセル RNA-seq および空間トランスクリプトーム解析の併用による IPF 病態解明. 第62回日本呼吸器学会, 京都; 2022年4月22-24日

齋藤 雄一, 脇本 信, 出嶋 仁, 諸岡 宏明, 揖斐 孝之, 山内 良兼, 高橋 伸政, 清水 禎彦, 池谷 朋彦, 坂尾 幸則, 川村 雅文: 非小細胞肺癌における腫瘍内・腫瘍間での PD-L1 発現の不均一性(Intra-tumor and inter-tumor heterogeneity of PD-L1 expression in non-small cell lung cancer). 第45回日本呼吸器内視鏡学会, 岐阜; 2022年5月27,28日

高橋伸政: ILO1502 (NSCLC cT1N0M0 に対する肺部分切除術の多施設前向き観察研究). 第15回呼吸器外科リサーチセミナー, WEB; 2022年4月19日

脇本 信, 高橋伸政: ILO1805 副次研究 (肺切除後気腫に対するドレーン管理法の多施設共同前向き観察

研究) 肺部分切除後気腫に対するドレーン管理法の検討. 第 16 回呼吸器外科リサーチセミナー, WEB ; 2022 年 11 月 1 日

高橋伸政 : ILO1502 (NSCLC cT1N0M0 に対する肺部分切除術の多施設前向き観察研究). 第 16 回呼吸器外科リサーチセミナー, WEB ; 2022 年 11 月 1 日

脳神経センター

吉川雄一郎, 宮田真友子, 菅澤 真, 寺西亮雄, 岩崎 充宏, 栗田浩樹. CEA における合併症回避のための基本手技, 第 51 回日本脳卒中の外科学会学術集会 (Stroke2022) (2022.3.17-20 大阪)

吉川雄一郎, 宮田真友子, 菅澤 真, 寺西亮雄, 岩崎 充宏, 栗田浩樹. 前方循環脳動脈瘤クリッピングにおける合併症回避のための基本手技, 第 51 回日本脳卒中の外科学会学術集会 (Stroke2022) (2022.3.17-20 大阪)

吉川雄一郎, 寺西亮雄, 木村辰規, 笠倉至言, 栗田浩樹. 再発脳動脈瘤に対する直達手術の治療戦略. 日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会 (JNS2022) (2022.9.28-10.1 横浜)

吉川雄一郎. 重粒子線治療後の再発咽頭がんに対する腫瘍全摘出におけるハイフローバイパスによる血行再建. 第 10 回脳神経外科道 瀬戸内脳神経外科手術手技研究会 (2022.11.26 広島)

吉川雄一郎, 小野寺康暉, 塩飽宙也, 寺西亮雄, 笠倉至言. 慢性硬膜下血腫の再手術に関わる因子の検討. 第 46 回日本脳神経外傷学会 (2023.2.24-25 岡山)

吉川雄一郎, 鈴木海馬, 小野寺康暉, 木村辰規, 寺西亮雄, 笠倉至言, 小倉丈史, 池田俊貴, 大井川秀聡, 栗田浩樹. 破裂内頸動脈血豆状動脈瘤に対する急性期トラッピング/ハイフローバイパスの中・長期予後 (Stroke2023) (2023.3.16-18 横浜)

寺西 亮雄, 菅澤 真, 宮田 真友子, 岩崎 充宏, 吉川雄一郎. 脳出血に伴う抗凝固薬休薬中に急性下肢動脈閉塞を来した 3 例. 第 47 回日本脳卒中学会学術集会 (STROKE 2022) (2022.3.17-20 大阪)

笠倉至言, 山上宏, 吉川雄一郎: 脳主幹動脈閉塞を疑う転送患者に対する completely direct to angiography. 第 63 回日本神経学会学術大会 (2022.5.18-21 東京)

笠倉至言, 吉川雄一郎, 寺西亮雄, 小野寺康暉, 塩飽宙也: 塞栓性 ICA 閉塞に対する LABLAS technique. 第 38 回日本脳神経血管内治療学術集会 (JSNET2022) (2022. 11. 10-12 大阪)

リハビリテーション科およびリハビリテーション部

洲川明久 摂食・嚥下支援チームの立ち上げ 2022.6.25 第 59 回リハビリテーション医学会学術集会 横浜

福田大空, 鈴木昭広, 藤本光美, 伊藤真樹, 柳澤千香子, 洲川明久, 藤田暁博 (埼玉医科大学大学院) : 心臓血管術後患者における運動耐容能に影響を与える因子の検討 2022. 9. 3 第 6 回日本循環器理学療法学会学術大会 東京

放射線技術部

大澤伸，門脇裕太：静脈疾患の血管内治療等における CVT 診療放射線技師の役割 2022.7 第 42 回日本静脈学会総会，東京.

大澤伸，関根栞，門脇裕太，山口彩香，浅石竜輝，墨誠：当施設における血管診療技師（CVT）の取り組み方・連携について 2022.10 第 63 回日本脈管学会総会，横浜.

関根栞，大澤伸，門脇裕太，山口彩香，浅石竜輝，山下文香，村上友梨，瀧澤玲央，原正幸，墨誠：EVAR 後経過観察における新規 3D トランスデューサーを用いた超音波検査（AAA Model）による最大瘤径測定の有用性 2022.10 第 63 回日本脈管学会総会，横浜.

田島修，鈴木輝彦，藤井真也，宮本敬史，武藤誠：連日の冠動脈造影で判明した STEMI 症例. 2022.5. 第 59 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会，東京.

田島修，内田瑛基，野々上明，村上彰通，鈴木輝彦，藤井真也，永吉信哉，宮本敬史，武藤誠：体重 100kg 超患者の経皮的冠動脈インターベンション(PCI)の被ばく線量. 2022.7. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会，横浜.

田島修，鈴木輝彦，宮本敬史，武藤誠：OFDI で典型的な器質化血栓様を呈した不安定狭心症の一例. 2022.10. 第 60 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会，東京.

検査技術部

草間冬子，大久保輝男，武藤吉輝，森田真麗英，諸星久留美，小島幸子，沼上秀博
心嚢穿刺後に心膜気腫を来した一例
第 58 回関甲信支部・首都圏支部医学検査学会 2022 年 10 月 1～2 日 栃木市

田中満里奈，巖崎達矢，松下誠
LD 活性測定における H 型および M 型サブユニットの反応性の相違に関する検討-JSCC 法および IFCC 法における活性値の乖離との関係—（論文賞受賞）
日本医療検査科学会第 54 回大会 2022 年 10 月 7～9 日 神戸市

諸星久留美，大久保輝男，武藤吉輝，森田真麗英，草間冬子，小島幸子，横田進
術後経胸壁心エコーにて左室仮性瘤を発見した一例
第 50 回埼玉県医学検査学会 2022 年 12 月 4 日 さいたま市

横田進，武藤吉輝，小西光政，油座記子，鈴木敦，沼上秀博，沼野剛
インシデント報告の参加型情報共有の構築
第 50 回埼玉県医学検査学会 2022 年 12 月 4 日 さいたま市

臨床工学部

V-A ECMO に併用する機械的循環補助デバイスについての検討

加藤和也 西田慎一 黒岩清一郎 中嶋康仁

第 28 回日本体外循環技術医学会関東甲信越地方会大会 2022 年 4 月 17 日

「意外と知らない充填液組成 お宅は？」

黒岩清一郎

第 28 回日本体外循環技術医学会関東甲信越地方会大会 2022 年 4 月 17 日

TAVI 術中における循環動態モニタリングに動脈圧波形解析が有用であった一例

加藤和也 高山秀輔 関沼翔太 中嶋康仁

第 32 回埼玉臨床工学会 2022 年 6 月 5 日

異なる転機を辿った TAVI 術中における急性僧帽弁閉鎖不全の 2 例

加藤和也 高山秀輔 関沼翔太 小暮俊一 西田慎一

第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 2022 年 7 月 22 日

機械的循環補助デバイスを用いた治療戦略を再考する

加藤和也

第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 2022 年 7 月 22 日

構造的な疾患治療における臨床工学技士の役割と課題

高山秀輔 加藤和也 関沼翔太 小暮俊一 西田慎一

第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 2022 年 7 月 22 日

弓部大動脈血栓症に対し血栓飛散防止のため 4 本送血を行った経験

中林将大, 黒岩清一郎, 鎌田浩聡, 植木弘一, 西田慎一, 中嶋康仁

第 47 回日本体外循環技術医学会大会 2022 年 11 月 20 日

SHD インターベンションと臨床工学技士

加藤和也

TAVI CE WEB conference 2022 年 12 月 26 日

「聞いてみよう！となりの体外循環～人工心肺における教育」

黒岩清一郎

第 4 回埼玉体外循環技術交流会 2023 年 2 月 25 日

薬剤部

杉田英章, 三ツ橋千尋, 塩澤亮太, 仙波秀彦, 柳田絢子, 三宮忠, 松島佳子, 下田純子, 鍵山奈保 薬剤師の疼痛アセスメントを契機に頸椎転移を発見し、治療につなげることができた 1 症例 2022. 5. 14 第 15 回日本緩和医療薬学会年会

杉田英章 埼玉吸入療法サポートネットワークの病薬連携と埼玉吸入指導マイスター制度について 埼玉

鈴木健太, 原幸稔, 松本大吾, 三ツ橋千尋, 下田純子, 永野奈美子, 三宮忠, ケモセーフからケモセーフロックへの変更前後の操作性比較に関するアンケート調査 2021. 10 第 31 回医療薬学会年会

鈴木健太, 原幸稔, 松本大吾, 仙波秀彦, 三宮忠, トレーシングレポートを活用した外来化学療法患者の薬学的管理の取り組みとその評価 2023. 3 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023

仙波秀彦, 塩澤亮太, 杉田英章, 柳田絢子, 原幸稔, 鈴木健太, 松本大吾, 高橋公子, 鍵山奈保, 三宮忠
COVID-19 専門病棟におけるプロトコルに基づく薬物治療管理導入による医師の業務負担軽減に関する検討
2022. 8 日本病院薬剤師会関東ブロック第 52 回学術大会

看護部

宮尾真奈美、石毛圭輝、木村亮、関根明子：心不全で再入院する患者のセルフケアの実態～退院後の生活環境が及ぼす影響～

2023. 3. 12 第 87 回 日本循環器学会学術集会（福岡県）

笠井美穂：カテコラミン依存の心不全患者に地域医療と連携した退院支援

2023. 3. 12 第 87 回 日本循環器学会学術集会（福岡県）

瀬尾直希、菅原沙樹、斎藤康人、貞山華澄、清水小百合、吉川雄一郎：くも膜下出血患者の早期リハビリテーションへの取り組み～プロトコル導入前後の変化を比較して～

2023. 3. 16 STROKE2023（神奈川県）

4 講演等

循環器内科

講演、セミナー、シンポジウム（演者，パネル）

宮本 敬史 心不全を見つけ治療すること～BNP 外来（心不全外来）開設のお知らせ～ 2022 年 4 月 12 日
六三会（寄居医師会）WEB で講演

宮本 敬史 出張いきいき健康塾
心臓弁膜症ってどんな病気？～最新の診断と治療とは～ 2022 年 4 月 21 日 You tube 配信

野々上 明 脳・心連携 Web セミナー 共催 熊谷市薬剤師会、Boston Scientific、第一三共株式会社
WATCHMAN の適応と当院における現状

2022 年 4 月 26 日

永吉 信哉 日本心血管インターベンション治療学会（CVIT）第 46 回東海北陸地方会

BPA ビデオライブ コメンテーター

2022 年 5 月 27 日 浜松

宮本 敬史 熊谷地区生活習慣病講演会

地域連携を見据えた心不全治療

2022 年 6 月 23 日 WEB で講演

藤井 真也 日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 学会共催セミナー3

BPA ビデオライブ コメンテーター

2022 年 7 月 3 日 東京京王プラザホテル

宮本 敬史 秩父郡市医師会学術講演会

心不全を見つけ治療すること～BNP 外来（心不全外来）開設のお知らせ～

2022 年 7 月 7 日 秩父農園ホテル+WEB

鈴木 輝彦 Philips Cardio Summit

Azurion も良いけど、だけじゃない！ Philips のカテ室ソリューション

2022 年 7 月 21 日 横浜

宮本 敬史 秩父郡市医師会学術講演会

BNP の重要性と心不全診療の新しい幕開け～BNP 外来（心不全外来）開設のお知らせ～

2022 年 7 月 26 日 熊谷医師会館+WEB

永吉 信哉 Imaging & Physiology BPA 症例検討会 in 東日本
35 ワイヤの役割をもう一度考えてみました
2022 年 8 月 26 日 web 配信

藤井 真也 埼玉西部地区肺高血圧治療ネットワーク研究会
慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) におけるバルーン肺動脈形成術 (BPA) による完全血行再建の課題
2022 年 8 月 31 日 web
宮本 敬史 弁膜症地域連携セミナー in 深谷 深谷医師会
弁膜症疾患の治療介入のタイミングを考える～問診・聴診・検査から如何に AS を見つけ出すか？～
2022 年 10 月 13 日 キングアンバサダーホテル+WEB 講演

宮本 敬史 行田医師会講演会
BNP の重要性と心不全診療の新しい幕開け～BNP 外来 (心不全外来) 開設のお知らせ～
2022 年 11 月 9 日 WEB 講演

藤井 真也 CTEPH Up to date Seminar in 東葛
慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) 治療の進歩とバルーン肺動脈形成術 (BPA) の発展
2022 年 11 月 15 日 web

鈴木 輝彦 ELCA Conferince EAST Kanto
ELCA の私の適応・私のやりかた コメンテーター
2022 年 12 月 1 日 web

鈴木 輝彦 KCT live Demonstration2022
ELCA の使いどころとは？ 当院での ELCA 使用経験
2022 年 12 月 3 日 埼玉県立循環器・呼吸器病センター

宮本 敬史 埼玉心疾患部会
当院の心不全の取り組み
2022 年 12 月 22 日 埼玉県庁

池田 和也 第 3 回 LINKS
石灰化×ステント×TAVI 弁
2023 年 1 月 14 日 web 開催

池田 和也 3 県合同 Case conference
当院で経験した Impella 症例での血栓症
2023 年 1 月 31 日 web 開催

宮本 敬史 出張いきいき健康塾 in 行田
皆さん、心不全ってご存じですか？～心不全の最新の診断と治療～
2023 年 2 月 2 日 行田市役所

宮本 敬史 本庄医師会学術講演会

BNP の重要性と心不全診療の新しい幕開け～BNP 外来（心不全外来）開設のお知らせ～
2023 年 3 月 10 日 本庄グランドホテル+WEB 講演

宮本 敬史 比企医師会
心臓病と貧血、そして CKD のお話～循環器内科医はなぜ腎臓を大切にしないといけないのか？～
2023 年 3 月 16 日 紫雲閣+WEB 講演

鈴木 輝彦 Focus on SMARTPCI CONCEPT
ACS に対する普段使いの OCT
Live Demonstration
In Saitama Prefectural Cardiovascular and Respiratory Center

講演、セミナー、シンポジウム（座長、パネル）

武藤 誠 第 59 回日本心血管インターベンション治療学会
関東甲信越地方会（関東甲信越 CVIT）座長
2022 年 5 月 7 日 大手町サンケイプラザ+web 配信

武藤 誠 心腎連関について考える会 座長
2022 年 5 月 27 日 WEB 開催（ZOOM ミーティング）

武藤 誠 ADATARA Live Demonstration2022 座長
2022 年 6 月 3 日 Web 開催

武藤 誠 第 264 回日本循環器学会関東甲信越地方会 座長
SGLT-2 阻害薬で HEpEF の予後は変わるか
2022 年 6 月 4 日 Web

武藤 誠 第 34 回 埼玉循環器フォーラム 座長
2022 年 6 月 16 日

宮本 敬史 急性心不全うつ血治療を再考する Opening Remarks Otsuka Web Seminar
2022 年 6 月 24 日 WEB

武藤 誠 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会 座長
2022 年 7 月 22 日

鈴木 輝彦 Total Management of Stroke Hot Topics Web Seminar 座長
2022 年 9 月 2 日 web

武藤 誠 熊谷市医師会学術講演会 座長
2022 年 9 月 21 日 配信場所 熊谷市医師会

武藤 誠 第 60 回日本心血管インターベンション治療学会
関東甲信越地方会（関東甲信越 CVIT）TOKYO LIVE DEMONSTRATION 2022 座長
2022 年 10 月 14 日から 15 日 大手町サンケイプラザ

武藤 誠 第 27 回新鎌北湖カンファレンス 座長
2022 年 10 月 19 日 ラ・ボア・ラクテ（川越市）

武藤 誠 CCT 座長
2022 年 10 月 27 日

武藤 誠 CCT 座長
2022 年 10 月 28 日

武藤 誠 心腎連関について考える会 座長
2022 年 12 月 22 日 web 開催（ZOOM ミーティング）

武藤 誠 埼玉県循環器漢方 WEB セミナー 座長
2023 年 2 月 10 日 web

宮本 敬史 心エコーセミナー in 埼玉北部 座長
北部保健医療圏・秩父保健医療圏コメディカル連携会
2023 年 3 月 24 日 web

その他

宮本 敬史 弁膜症の新しい治療
TAVI と Mitra Clip のお話 CCU 勉強会
2022 年 6 月 16 日 CCU

宮本 敬史 心不全勉強会
2023 年 3 月 22 日 5 階講堂

血管外科

- ・原正幸. 一般演題「末梢 3」. 第 30 回日本血管外科学会関東甲信越地方会. 東京. 2022 年 9 月.
- ・原正幸. ステンントグラフト治療における工夫のあれこれ-成績向上のために-. 大阪. 2022 Japan Endovascular Treatment Conference.
- ・原正幸. 大動脈解離に対する Najuta. Webinar (SB-KAWASUMI). 2022 年 4 月.
- ・原正幸. 私が Zenith を使う理由-慈恵医大の経験から-. 第 19 回 彩の国 Endovascular Surgery 研究会. 埼玉. 2022 年 4 月.

放射線診断科

叶内 哲：胸部 X 線写真読影の基本，第 36 回埼玉県肺がん検診セミナー，2023. 01. 14. さいたま.

呼吸器内科

西田隆：熊谷歯科医師会隣接医学講演会：口腔内落下物の誤嚥・誤飲への対処について：2022 年 12 月 23 日

磯野泰輔、西田隆、小林洋一：第 44 回日本呼吸療法医学会学術集会：気管支鏡ハンズオンセミナー：2022 年 8 月 6 日

小林洋一：これからの ALK 陽性肺癌治療を考える会 in 首都圏：当センターにおける肺癌遺伝子検査の現状と工夫について：2022 年 11 月 18 日

小林洋一：熊谷医師会講演会：当センターのリアルデータから見る IV 期非小細胞肺癌の化学療法～副作用管理と患者紹介のポイントを含めて～

高久洋太郎：第 15 回 北埼玉吸入療法連携会：演者：調剤に役立つ免疫の知識：2022 年 6 月 23 日

高久洋太郎：リウマチ関連疾患研究会：演者：リウマチ診療における医療連携への取り組み～呼吸器内科医の立場から～：2022 年 9 月 1 日

高久洋太郎：アレルギー週間市民公開講座 2023：演者：気管支喘息：2023 年 2 月 4 日

鍵山奈保：Lung Cancer Webinar in 埼玉：Discussant：「各施設における遺伝子パネル検査の現状と課題」2022 年 9 月 29 日

鍵山奈保：Lung Cancer Experts Webinar in Saitama：座長：「ブリグチニブの使用経験から考える投与における注意点」「ALK 陽性非小細胞肺癌のベストシーケンス」：2022 年 10 月 12 日

鍵山奈保：秩父郡市医師会学術講演会：演者：間質性肺疾患の診断とその管理～抗線維化薬導入のタイミング・併発症・合併症を含めて～：2023 年 2 月 8 日

呼吸器外科

諸岡宏明「人体の仕組み／呼吸器」2022 年 6 月 24 日、7 月 8 日、7 月 15 日、7 月 22 日 熊谷市医師会看護専門学校 准看護学科

諸岡宏明「疾病と治療Ⅱ／呼吸器系・循環器系 呼吸器外科疾患」2022 年 9 月 2 日、9 月 9 日、9 月 16 日 熊谷市医師会看護専門学校 看護学科

高橋伸政：座長、特別講演，第 10 回埼玉県北部肺癌研究会学術講演会，熊谷市；2022 年 10 月 21 日

高橋伸政：「呼吸器外科疾患」埼玉医科大学クルズス、2022 年 8 月 31 日、12 月 14 日

脳神経センター

吉川雄一郎. [特別講演] 県北地域における急性期脳卒中治療の現状～脳卒中センター開設 3 年を経て～, 深谷寄居医師会学術講演会, (2022.1.18 寄居町)

吉川雄一郎. [教育ビデオセミナー] 「私の手術」椎骨-後下小脳動脈分岐部動脈瘤の開頭手術. 第 51 回日本脳卒中の外科学会学術集会 (Stroke2022) (2022.3.17-20 大阪)

吉川雄一郎. [座長] 脳・心連携 Web セミナー (2022.4.26. 熊谷)

吉川雄一郎. [ランチョンセミナー] 「新型超音波手術器と骨ペーストの使用経験」前方循環動脈瘤のクリッピング～基本と応用、閉頭時の工夫. 第 42 回日本脳神経外科コンgres総会 (2022.5.15 大阪)

吉川雄一郎. [座長] 埼玉県北部脳梗塞治療研究会 (2022.6.9. 熊谷)

吉川雄一郎. [座長] Brain Management Forum (2022.8.2. 熊谷)

吉川雄一郎. [座長] 第 4 回埼玉若手脳神経外科手術研究会 (2022.11.2. 川越)

吉川雄一郎. [特別講演] 埼玉県の脳卒中医療の現状と脳卒中センターの役割. 鴻巣市医師会学術講演会 (2022.11.9 鴻巣市)

吉川雄一郎. [教育講演] くも膜下出血後のエンドセリンに対する血管収縮性亢進メカニズム～受容体シグナルの活性化と筋フィラメントのカルシウム感受性亢進の増強作用を中心に～. Medical Advisory Board Meeting Inspiration (2023.2.1 東京)

吉川雄一郎. [ディスカッサント] 直達手術ビデオセッション Complex ICA aneurysm に対する neck clipping 手技. 1st UTOPIA for CVD (2023.2.25 大阪)

吉川雄一郎, 鈴木海馬, 小野寺康暉, 木村辰規, 寺西亮雄, 笠倉至言, 小倉丈史, 池田俊貴, 大井川秀聡, 栗田浩樹. [シンポジウム] 「破裂脳動脈瘤の staged management」破裂脳動脈瘤に対する急性期コイル塞栓術後再発に対する直達手術 (Stroke2023) (2023.3.16-18 横浜)

笠倉至言, 吉川雄一郎, 寺西亮雄, 木村辰規. [講演] 脳卒中急性期 経管栄養プロトコル. 第 3 回日本脳神経内科血管治療研究会学術集会 (2022. 8. 6-7)

笠倉至言, 吉川雄一郎, 寺西亮雄, 木村辰規. [講演] 県北地域の急性期脳梗塞治療の現状と課題. 県北脳卒中地域連携セミナー (2022. 9. 15 熊谷)

笠倉至言. [座長] 血栓回収 悪性腫瘍. 第 38 回日本脳神経血管内治療学術集会 (JSNET2022) (2022. 11. 10-12 大阪)

寺西亮雄. [講演] 危ない頭痛. 頭痛診療 up to date (2022. 3. 4 熊谷)

寺西亮雄. [一般講演] 当院における脳腫瘍治療. 第4回脳腫瘍治療セミナー (2023. 3. 14 熊谷)

病理診断科

清水禎彦. 間質性肺炎と肺癌. 第16回県南 CHEST カンファレンス. 2022年8月2日. つくば.

清水禎彦. 呼吸器 I. 第47回細胞診断学セミナー. 2022年9月9-30日 (Web開催).

清水禎彦. 関節リウマチ肺病変の病理学的疑問点. 第40回埼玉膠原病肺研究会. 2023年3月8日. 坂戸.

放射線技術部

田島修: 血管撮影領域での研究発表をしよう! 着眼点や進め方を伝授します・血管撮影領域での線量管理・
2022.12. 第69回日本放射線技術学会関東支部研究会発表大会. つくば.

検査技術部

森田真麗英 心血管エコーWEB 合同カンファレンス「Echo-S 2023 冬」 症例検討「大動脈二尖弁と弁輪部
膿瘍」2023年1月13日 web

沼上秀博 2022年度埼玉県細胞診講習会 スライドカンファレンス 2023年2月11日、ハイブリット

臨床工学部

Bioengineering Hackathon 「生体医工学×臨床工学」

黒岩清一郎

日本生体医工学学会 サマースクール 2022 2022年8月6日、7日

恐れる必要なんてない! 循環補助デバイスの基礎

加藤和也

埼玉心血管コメディカル研究会 第9回基礎教育セミナー 2022年8月28日

FFR/Resting Index

大石 航平

埼玉心血管コメディカル研究会 第9回基礎教育セミナー 2022年8月28日

「IMPELLA」

黒岩清一郎

東京都臨床工学技士会 第3回循環器セミナー 2023年2月3日

薬剤部

鈴木健太 第4回 外来化学療法病薬連携研修会 発熱性好中球減少症
2022.5.27 WEB

鈴木健太 第5回 外来化学療法病薬連携研修会 Atezolizumab 術後補助療法
2022.10.28 WEB

鈴木健太 第6回 外来化学療法病薬連携研修会 学会報告&末梢神経障害
2023.3.10 WEB

三ツ橋千尋 第15回北埼玉吸入療法連携会勉強会 ～COPD 吸入薬～違いを整理しよう～
2022.6.23 WEB

杉田英章 第15回北埼玉吸入療法連携会勉強会 吸入を継続してもらうために
2022.6.23 WEB

杉田英章 第5回外来化学療法病薬連携研修会 がん性疼痛管理に役立つアセスメントの知識
2022.10.28 WEB

柳田絢子 第16回北埼玉吸入療法連携会勉強会 エアロスフィアの新デバイスについて
2023.2.17 WEB

栄養部

齋藤仁美 第16回北埼玉吸入療法連携会勉強会（埼玉県立循環器・呼吸器病センター、(一社)熊谷薬剤師会共催）

COPD患者の栄養指導～COPD教室から～ 栄養療法のウソ？ホント！？
2023年2月17日 WEB

小池祐介 心不全に関する連携研修会（埼玉県保健医療部疾病対策課主催）
心不全と付き合っていくための栄養アプローチ
2023年3月24日 WEB